デジカメの話から社会現象論へ飛躍？？？

当ＨＰ「スナップＰ」を覗いてくれたあるメル友とのやりとり。

友：「あじさいとカマキリとか、かたつむりなんてよく見つけますね～。私だったら素通りしてそうです。。。
　やはり、ここは一眼レフを購入して、さらに写真の精度を上げられてみては？（笑）」

　（メル友は高価な一眼レフのデジカメを持っているがあまり使わないのを知っているので）
私：「買うより、君のカメラは『撮したい、撮したい』と叫んでるよ。カメラは、「居場所（居甲斐）」があっても「使われ甲斐（行き甲斐）がない」と嘆いているよ。
　人も物も、『使われ甲斐』があった方がいいよ。使って貰えず寂しい思いをしているカメラに寄り添ってあげた方がいいかなと思う。
　カメラに大いに『使われ甲斐』を感じさせてあげたいから、寄こせ！（笑）」

メル友：「無生物にまで寄り添いますか！！（笑）　幸泰さんのコミュニケーション論は深い！！」

私：「なに分、自分は幼児のままなもので、カメラ（無生物）にも命があるように思ってしまいます！！（笑）」

メル友：「ピアジェの発達段階説の前操作期に見られる、無生物に感情等があるように“感じる”アニミズムですね！！（笑）
　２歳頃から７，８歳頃に見られる状態ですよ～（爆笑）」

私：「感性豊かな俳人、歌人は、自然（無生物を含め）のものに心を感じるから、俳句、短歌を詠めると思わない？
　無生物にも感情があるように“感じる”のは、まだ幼児の証と片付けるのは、ある種の大人の傲慢さ。
　　無生物にも心が宿っているように“感じる”ということは、相手の気持ちを思い遣る心が人間には産まれながらに備わっているということ。
　だのに、どうしてしだいに大きくなると、家族間、友人間でさえ悲惨な事件が起こるような今の社会現象のように、相手を思い遣ることが少なくなるのでしょうかね。言い換えれば、人間の本質からなぜ逸脱するようになるのかということ。
　そこを解きほぐして行けば（人間の本質を互いに確認し合えば）、今の社会現象の根源的解決策があるように思わない？
　これは、いつものように自分勝手な、自分特有の解釈かな？（爆笑）
　いずれにせよ、カメラを早く寄こした方がいいよ！！（笑）」

友「でも、カメラは長期レンタルいたしませんよ～！！（爆笑）」

（2005 年 7 月 13 日　記）

（追伸：写真２枚は２Ｐに掲載）

2005年07月10日
あじさいとカタツムリ